

石橋 達勇

浅井学園大学人間福祉学部 助教授

高齢者によるハンドル形電動車いす使用時に必要な寸法・空間に関する基礎的研究

公共施設内でのハンドル形電動車いす利用に関する寸法や機能させる為の条件を知る手がかりとして、60才以上の高齢者男女10名、20才代の若年者男女10名を被験者として、直線・障害物回避コースにおいてハンドル形電動車いすを走行させる実験を行い、その結果から、操作性について検討した。その結果は以下のとおりである。

直線コースにおける操作性について

- ・前進走行については幅員 80 c mであれば可能。また世代別・性別の操作性についての大きな差異はない。
- ・後進走行については幅員 80 c mでは困難。また世代別の操作性については高齢者、性別の操作性については男性の、各々の操作能力の差異が大きい。
- ・通路において前進・後進のみの走行を行う為には最低限 90 c mの幅員が必要。

障害物回避コースにおける操作性について

- ・左右回避別・性別の操作性について、大きな差異はない。
- ・世代別の操作性について、高齢者に若干の差異がある。
- ・通路幅員 120 c mで板状の障害物の回避行動について、障害物部分の幅員が 80 c mであれば走行可能。